

兵庫教組、高教組と記者発表、依然として深刻な状況が続いている!!

10月1日時点の教職員未配置、小中高あわせて251人

兵庫教組は兵庫高教組と12月4日(木)10時30分から、県庁記者クラブにて「今年10月1日時点の教職員未配置の調査結果」を記者発表しました。記者発表には、テレビ局4社(MBS毎日放送、ABC朝日放送、SUNテレビ、NHK)と新聞社4社(読売新聞、神戸新聞、朝日新聞、毎日新聞)が参加。10月1日時点の教職員未配置は、小中高合わせて251人に上ること、特に常勤の未配置が5月と比べても調査を始めた2022年と比べても増えていること、病休代替の未配置が5月と比べて増えていること、定員未充足がまだ56人もあることなどに触れ、「学校の危機的な状況・常勤が敬遠される」実態についてなどを報告しました。また、今年度は数字だけではなく、対県確定交渉で資料とした「あなたの声を聞かせてください」に寄せられた声も示して、現場の疲弊している状況も説明しました。新聞各社からも質問が相次ぎ、学校の大変な状況がより鮮明になりました。県教委は未配置の原因である深刻な長時間過密労働を解消することにこそ力を入れるべきです。先読み加配の拡充や新採用者の増員などとともに、さらに学校現場の多忙化解消の運動を強めていく必要があります。

1 小中学校の状況

①調査の方法

各市町教育委員会へ直接、調査依頼を送付

②回収結果

40市町教委のうち40市町すべての教委から回答

③未配置の実態 ()の数は5月1日の未配置

	小学校	中学校 (特支学校を含む)	合計
常勤	95人(80)	70人(58)	165人(138)
非常勤	29人(54)	23人(52)	52人(106)
合計	124人(134)	93人(110)	217人(244)

④常勤未配置の理由

	産育休代替	病欠休代替	介護休代替	定員未充足	退職	合計
小	40人	27人	0人	24人	4人	95人
中	13人	14人	0人	27人	4人	58人
特支	5人	2人	0人	5人	0人	12人
合計	58人	43人	0人	56人	8人	165人

⑤未配置の自治体数

未配置の数	0人	1~3人	4人~9人	10人~
自治体の数	3市町	23市町	8市町	6市町

2 高等学校特別支援学校の状況

①調査の方法

各支部へ調査依頼、メール・FAX等で回答依頼

②回収結果

158校のうち45校から回答

③未配置の実態

34名の未配置がある。

※生活学習支援員、介助員、調理員、寄宿舎指導員を含む



テレビ局4社も入った記者発表の様様

3 結果について

①常勤の未配置が165人と異常な事態になっている。「未配置は依然として深刻な状況」が続いている。

②「病欠休代替が見つからない」5月は33人だったが、10月では43人に増えている。

③定員未充足は5月67人だったが10月でも56人もあり、改善しているとは言えない。

※県教委も対策を打っているが、一向に改善していない。

4「あなたの声を聞かせてください」に寄せられた声から

今回の記者発表では、先の対県確定交渉で現場の声として訴えた率直な声もマスコミ各社に説明しました。マスコミからも質問が出るなど、大きな反響がありました。一部紹介した声です。

●こんな仕事、夢と希望を持ってついたらはずなのに。こんなはずじゃなかった。後悔するも目の前の子ども達や同僚のことを思うと、無責任に放り出せず、頭の中、胸の内はいつも大混乱です。なんとかしてください。このままではみんな病んでしまいます。

●教員が足りなくて、教頭先生が担任をしたり、専科の先生がいなくて担任が授業をしたり、という現状が当たり前になっています。本当に本当にギリギリの状態です。もう辞めたいです。しんどいです。…中略…我が子をみたいです。関わる児童に余裕を持ってたくさん関わりたいです。どうかどうか、今いる教員を大切に守ってください。お願いします。

●病休や都合で、年休で休むことも気を遣うほど人が足りていない。何とかして下さい。

●未配置の学校では、そのまま放置する訳にはいかないので、当たり前のように誰かの負担が増えます。ましてや、児童生徒の問題や、保護者対応で担任が療養になっている場合は、誰が代替で入っても、かなりの労力がいります。その代替がまた療養に入ることも多くて……。負の連鎖で、現場は疲弊しています。出来るだけの待遇改善と、新しく、教員を目指す人を増やす為の、具体的な手立てを早急に打ってください。

「このままでは学校が持たない」まさに、そんな状況が県下各地の学校で起こっています。兵庫教組は、今後もこの問題解消のためにしっかりと取り組みます。

未配置解消のために、教職員の多忙化解消、待遇改善をさらに進めよう!!